

第 11 回 埼玉輸血フォーラム

開会あいさつ

埼玉県合同輸血療法委員会 代表世話人 池淵 研二

皆さんこんにちは。今日は連休前の土曜日の午後ということで大変貴重な時間に皆さんにこのフォーラムに集まっていただき、どうもありがとうございます。

この埼玉輸血フォーラムは、埼玉県合同輸血療法委員会が地道な活動を行っていますが、その年に一度の活動内容の発表の機会です。埼玉県合同輸血療法委員会には下部組織に業務検討小委員会、看護師部会、自己血輸血小委員会、適正輸血推進委員会が活動しており、アンケート調査、訪問勉強会、集合型研修を企画して、埼玉県内の医療機関の輸血医療の安全性の確保と、そして適正な推進を目指して活動しております。

第一セッションは、合同輸血療法委員会の活動をご紹介します。今回は、業務検討小委員会の検査技師部会から適正輸血を進めるための取り組みとして、輸血製剤の使用状況と廃棄血の状況についてアンケート調査を行いましたので、その成果を報告させていただきたいと思っております。看護師部会の活動として、一昨年からですが、埼玉県看護協会の研修に加えていただき、200人以上の看護師さんが参加する研修会の講師として参加できるようになりました。あと、年二回、埼玉県赤十字血液センターと協賛で埼玉輸血セミナーをやっております。それから看護師部会で作成した安全な輸血・間違った輸血シーンを紹介するDVDを県内の医療機関の看護師さん向けの研修会に活用している様子や、それを閲覧さ

れた方々のコメントなどを報告していただきたいと思っております。業務検討小委員会技師部会は、緊急時に血液製剤を搬送する時の血液センターとのやり取りや簡略化、迅速化等を検討しており、血液センター供給係から迅速搬送の状況、実態について、ご紹介していただいて理解を深めてもらってはどうかという提案があり、説明させていただくことになりました。それが第一セッションです。

第二セッションは、去年開催して非常に好評でありましたパネルディスカッションを継続して行いたいと思っております。世話人会のメンバーが医師役、看護師役、検査技師役になっていただき、「予期せぬ輸血副作用！こんな時どうする？」という演題でディスカッションを行う予定です。近年、特に輸血の中で副作用が課題になっておりますので、それをテーマに報告させていただきたいと思っております。

そして第三セッション、教育講演セッションですけれども、今年は熊本大学病院、輸血・細胞治療部の米村先生にご登壇をいただきまして「熊本震災を経験して学んだ災害時の輸血体制」というテーマでお願いしております。埼玉県、あるいは日本全体ですけれども、最近は地球規模の環境変化、気候変動によって災害あるいは地震、それから津波に遭遇する確率が高くなってきました。そのような災害時に輸血医療の専門家はどのように血液製剤を確保し、供給・搬送体制を準備し、輸

血に対応するかというところを常日頃準備して考えておきたいということが目標でありまして、今年米村先生に遠路、熊本からお越しいただくことになりました。今日のこの輸血フォーラムが皆様に何らかの印象を持って帰っていただいて日常の臨床に役立てていただければと願っております。これにて私の最初の挨拶を終わらせていただきます。

今日はどうもありがとうございました。